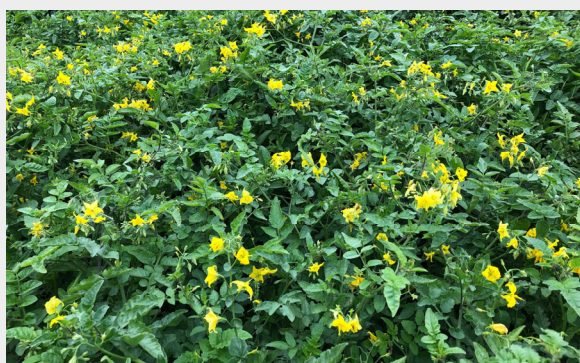
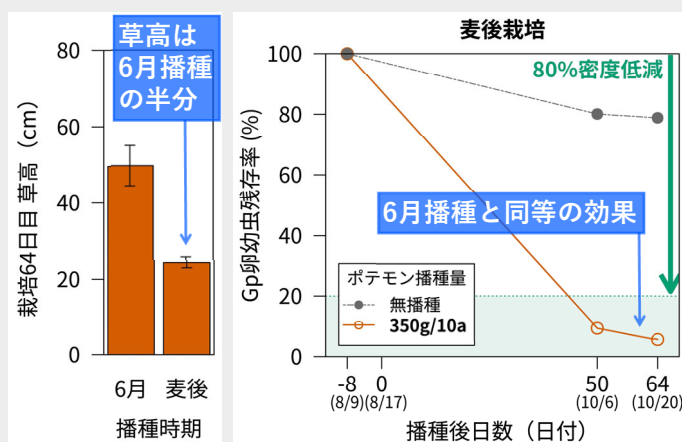
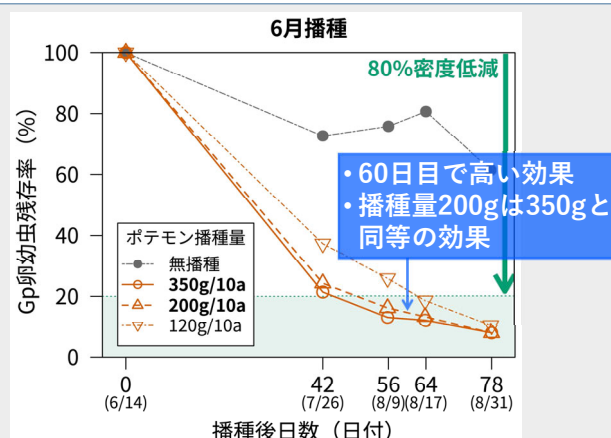


ジャガイモシロシストセンチュウ防除のための トマト野生種「ポテモン」の新利用法

トマト野生種「ポテモン」は、バレイショの重要害虫ジャガイモシロシストセンチュウ(Gp)を減らす植物です。現状は、6月に播種量350g/10aで播種し、60~80日間栽培する体系でGpの緊急防除に活用されていますが、その栽培技術の改善を図るとともに、輪作を崩さない栽培体系での利用法を開発しました。



- ポテモン（写真）は、栽培期間60日で十分なGp低減効果を得られ、Gp密度は栽培前の20%以下になります。
- ポテモンの6月播種栽培では、播種量200g/10aでも現行（350g/10a）と同等の高いGp防除効果が得られます。
- ポテモンを小麦に後作してもGp防除が可能です（麦後栽培）。6月播種栽培より生育量は劣りますが、十分なGp防除効果が得られます。この場合の播種量は350g/10aで、栽培期間は60日を目標とします。



新技術のメリット

- ✓ 播種量範囲の拡大により種子不足への適用性が向上します。
- ✓ 麦後栽培は輪作体系を崩さずにGpの防除が可能になります。

新技術の注意点

- ✓ ポテモン栽培によるGp防除は緊急防除向けの技術です。
- ✓ 実際の栽培は、緊急防除を担当する普及センターの指導に従ってください。

ポテモン栽培年は収入無し

	1年目			2年目			3年目				
	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月
現状	ポテモン			秋まき小麦					非寄主作物		
麦後栽培		非寄主作物		秋まき小麦	ポテモン				非寄主作物		

本成果は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業（JPJ007097）」ならびに「戦略的スマート農業技術等の開発・改良（JPJ011397）」により実施したものです。